

婦人のための情報誌

7号

# ねとねと



## 目次

特集 女性の就労について.....	2
◇婦人の就労.....	2
◇企業は働きたい主婦に何を求めるか.....	4
◇男女雇用機会均等法について.....	6
◇情報コーナー.....	7
◇女性の就労と課題.....	8
ティータイム.....	9
はじめまして.....	10
◇トップインタビュー.....	10
◇グループ情報.....	12
海外スपोर्टナロレのNGOフォーラムに参加して.....	13
今年は「国連婦人の十年」最終年.....	14
こだま・読者の声 本の紹介.....	15
編集員紹介・あとがき.....	16



静岡県

# 働く女性のいま・みらい

女性の就労に対しての様々の論議が社会のあらゆるレベルで、いろいろな角度から盛んになって久しい。しかし、こと男性の就労ということになると論議は少ない。

生き方の選択が一本道しかない男性と比べて、女性にはいくつかのライフスタイルが選択可能である。その可能性ゆえに、その選択したスタイルによつては、論議を呼ぶのであろう。

長い間、近代日本に根づいてきた「男は外、女は内」「男は仕事、女は家庭」という価値観が変つてきているという点では、誰も異論をはさまない。

しかし、どこまで変えるべきかという点では、本根と建前が交錯して各人各様である。その様々の意識が企業において、家庭において、複雑にからみあっている。

今、情報化、高齢化、国際化は社会の潮流である。人々の意識・価値観の多様化もすっかり定着した観がある。こうした社会変化の文脈を的確にたどるならば、女性労働の拡大もまた、所与の必然である。

これらを前提として、女性も男性も、暮らしやすい社会を創っていくためには、何が必要なのか、皆さまとともに考えていきたいと思う。

## 「特別寄稿」

### 婦人の就労

弁護士 澤口喜代子

今年八月、日本リクルートセンタ―がまとめた主婦の意識調査（対象は首都圏在住の30～49歳の主婦一〇五六人、このうち就労主婦59%、専業主婦41%）において、専業主婦で就業を希望している者は48%で、ほぼ二人に一人の割合で就労の希望を持っているという結果がでている。

昭和五十九年度の「労働力調査」によれば、働く女性は約二三〇〇万人、このうち雇用者は約一五〇〇万人であり、また雇用者の約六割が有配偶者となっている。

現代のように、家事の省力化、外部化が進み、子供の数の減少により早くから子供から手が離れること、寿命の大幅な伸び、高学歴化などを考えれば、今後ますます婦人の就労、社会進出が進むことは歴史的な必然と思われる。

かつて、婦人が就労することにより鍵っ子、非行の問題などが取りあげられ、消極的側面として種々問題となったが、今ではあまりとりあげられるようなこともなくなってきた。働く婦人が増加し、働くことが当然のように思われて





▲婦人の問題を考える県会議で、女性の就労について語り合う策定委員の先生方と参加者



▲就労中の婦人

くの中で生じた変化といえるだろう。  
しかし、婦人の就労には様々な困難が伴っている。まわりの人が働いているから自分も働くというような安易な考えではなく、働くことの意義をしっかりとふまえ、強い決意をもつと共に、そのために家族間での理解を得ることが必要である。家族との深いきずなで結ばれ、家事、育事の分担、協力を得て、子供も母親の就労を誇りとし、家事もすすんで手伝うような家庭をつくりあげていくことが求められる。

弁護士として婦人にまつわる様々な相談をうける。最近はいない男性が増えてきたな、というのが実感であるが、これは女性弁護士としての偏見であるかもしれないが――。

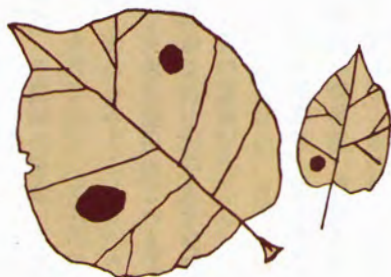
婦人の就労の問題で最もショックを受けたケースに次のようなものがあった。

その女性は、大卒でもなく、キャリアアウーマンでもない普通の真面目に働く女性であり、上司から昇格試験をうけたらどうかと勧められて、終業後、男子従業員と共に昇格試験のための勉強の指導をうけることになり、遅い帰宅が続いたところ、夫から家をしめ出さ

れ、ついには離婚を求められ、結局、子供もついて離婚に踏みきざざるをえなくなってしまう。

ごく普通の婦人労働者がこつこつ働き続け、真面目に生き、上司からも仕事ぶりを認められるまでになりながら家庭の幸福を失わざるをえなかったというこのケースが婦人の就労の困難性を象徴しているように思われた。

深い愛情で結ばれた家族を基盤として、男女がともに自己の能力を発揮し社会的に有用な存在として人生をまっとうすることの出来る社会でありたいものである。



筆者プロフィール  
昭和十八年 掛川市生まれ  
静岡県総合計画審議会委員  
「婦人のための静岡県計画」  
(仮称)策定委員

## 座談会

60.8月 西武百貨店静岡店で

# — 企業は働きたい主婦に何を求めるか —

西武百貨店の場合

### 出席者

松原昭治さん

西武百貨店 静岡店

総務部長

影山貞子さん

西武百貨店 静岡店

人事第一係長

山本直美さん

主婦

再就職を考えている



向って左より影山さん、松原さん、山本さん

昭和58年の総理府の「婦人の就業調査」の中で、今後の就業意向についてみると、20歳～59歳の女子の無職者の約半数が「職業を持ちたい」と答えています。

女性の社会参加が進む中で、主婦の再就職の実情はどうなっているのでしょうか。

子育ても一段落し、仕事をとおしての自己実現の道を模索している主婦にとって、企業の考え方は少なからず参考になると思います。

女性の能力活用という点では、キヤスト制度やライセンス制度などを取り入れ、最先端をいく西武百貨店をお訪ねしてみました。

西武百貨店静岡店総務部長の松原昭治さん、人事第一係長の影山貞子さん、主婦で就職を希望の山本直美さん（静岡市）の三人にご出席いただき編集員沢辺の司会で「主婦の再就職・女性と仕事」について話し合ってみました。

司会 ここ数年四年制女子大生の就職難がいわれたり、「男女雇用機会均等法」(略称)が成立して、女性が働くことに関心が高まっています。子育て後の主婦の再就職希望が増えていますが、企業としてはいかがですか。

松原 百貨店の場合、お客様の八割が女性なので、女性の感性で売場を作るといふことでいろいろな形で女性を活用しています。西武百貨店では、次のような制度を導入しています。

キヤスト制度は、働きたい人の希望職種、勤務地、勤務条件等を登録しておき、会社側の必要な時に面接、試験をした上で採用していく。

ライセンス制度は、満六年以上勤務して退職した場合、本人が希望するとライセンスが与えられ、再雇用の機会が与えられる。

こうした制度を作る時、社会の高齢化、女性の社会進出、メカトロ化(機械の中にコンピュータなどを内蔵して機械が自動的に動く機能をもたせること)という時代の変化を基本的なところでおさえ、どのように対応するかを考えています。再就職に関しては、女性の寿命が延びて社会進出が盛んになる一方、メカトロ化による省力化がどんどん進んで、労働市場は狭められ、自己実現ができるような仕事はなかなかない。しかも、メカトロ化が進んで、かなりの部分に対機械がやってしまうためそれに対



応していかなければならない。

女性が働く時、(一)働く目的をし  
っかり持つ。それでないと長続き  
しないし、企業を求めるものと合  
致しない。(二)家庭機能の中での機  
性は出てくるはずでどこかで線を  
引いて割り切らないと職場での存  
在価値はない。(三)時代の変化につ  
いていくため新聞をしっかり読む  
などして、政治や経済の流れをつ  
かむことも大切だと思う。

司会 山本さんは、仕事を探して  
いても実際に働く場が見つからな  
いのは何が障害となっていると思  
いますか。

山本 やはり家族の生活に合わせ  
て、日曜、祭日に休みのとれる職  
場というとなかなかありません。  
そこまでの犠牲を払って働くこと  
は考えていませんので。

司会 西武百貨店の場合、子供が  
いる女子社員は、子育てなどをど  
のようにしていますか。

影山 人それぞれですが、お年寄  
がいらつしやるとか、保育所等に  
預けている方も大勢います。子供  
と接する時間をできるだけつくる  
ように工夫しているようです。

司会 女子社員の結婚退職は多い  
ですか。

松原 昭和四十五年には女子の退  
職率は二割。現在は一割です。そ  
して「結婚でやめる」から「子供を  
産むまで」、そして「子供を産んで  
も勤める」と、退職の時期が変わっ  
てきています。

そして、女性の約四分の一の人  
が自分の能力を生かして、仕事の  
ポストもどんどん上がってきてい  
ます。西武百貨店全店で女性管理  
職が四百人います。

司会 山本さんはこれから仕事に  
つく場合、パートでもいいとお考  
えですか。

山本 今年の二月までパートで働  
いていましたが、やめてからパー  
トの働き方が果してよかったのか  
なと考えています。その仕事はか  
なり私に任せてもらえた部分があ  
りましたが、働く意義を持ってい  
ないとしどしても歯車の一部とい  
う感じがします。かなりの犠牲を  
払うわけですから、それに見合う  
だけの魅力ある仕事でないと続け  
られないですね。やはりフルタイ  
ムで働きたいですね。

司会 採用時の資格要件によく年  
齢の制限があるんですが、人によ  
って能力が違いますから、年齢で  
制限してしまうのはどうかと思  
いますか……。

松原 だから、「私は四十二歳だけ  
どこういうことができる。役に立  
つはずだ」と主張して欲しいので  
す。

影山 当店では、職種によって年  
齢制限がある場合もあるし、ない  
場合もあります。たとえば、婦人  
ヤングの売場だったら制限してい  
ます。

司会 資格の問題ですが、主婦が  
再就職する場合、まず何か資格を  
取ってからでないと雇ってもらえ  
ないじゃないかと思いますが。

松原 あまり資格は必要ないと思  
います。専門学校などで学んでき  
たことが即、実務ではなかなか通  
用しませんね。当社では経験のあ  
る人の方が力を出しています。そ  
れでライセンス制度を設けていま  
す。

司会 西武百貨店では女性の雇用  
に対して前向きですね。一般的に

は、一度退職してしまうと再雇用  
の機会はなかなか開かれていない  
のが実情です。

山本 経験を積んできた人は、言  
葉の遣い方や、働くことの意義な  
どいろいろの面で若い人より優れ  
ている点を持っていると思うので  
すが……。もつと積極的に受け入れ  
ていった方が企業の側にもプラス  
になって出てくると思います。

司会 責任があり、やりがいのある  
仕事に就きたいと考えている女  
性が多いわけですが、影山さんは  
係長というポストにつかれて、や  
はり励みになられたでしょうね。

影山 ええ。責任は重大だけれど  
仕事によつては女性に向く、女性  
の係長なら男性にはない管理がで  
きるという面もあるので、まだま  
だ登用できる部分は多いですね。

女性の中でも女だからということ  
で、一歩退く生き方が減ってきて  
いますね。今後、仕事をする上で  
の男女の差別がなくなっていくと、  
逆に女性の甘えが許されなくなる  
ので、その方が厳しいという感じ  
がしています。

司会 これから女性が就労の場に